

令和4年度
第4回柏市立図書館協議会

資料

令和5年5月11日(木)

柏市立図書館

次 第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 令和4年度主要事業報告
- 4 令和5年度事業構想
- 5 報告と協議
- 6 その他
- 7 閉会

目次

1	柏市立図書館協議会委員名簿	1
2	柏市教育委員会 出席職員名簿	2
3	令和4年度主要事業報告	3
4	令和5年度事業構想	7
5	報告と協議	8

1. 柏市立図書館協議会委員名簿

令和5年5月11日現在

番号	選出区分	氏名	職等	役職
1	学校教育関係者	いわなが あきこ 岩永 朗子	柏市立柏第四小学校校長	
2	〃	きさま ひろみ 笹間 ひろみ	柏市学校図書館コーディネーター	
3	社会教育関係者	はむら たいが 羽村 太雅	一般社団法人サイエンスエデュケーションラボ理事長	
4	〃	みやじま きりえ 宮島 衣瑛	一般社団法人 CoderDojo Japan 理事	
5	〃	ふじた としこ 藤田 とし子	特定非営利活動法人柏ソーシャルキャピタル協会理事長	
6	〃	たかはし ふみなり 高橋 史成	社会福祉法人柏市社会福祉協議会 地域福祉課長	
7	家庭教育の向上に資する活動を行う者	よしはら みゆ 吉原 美優	K I K A I (カシワワカモノプロジェクト) メンバー	
8	学識経験者	みうら あきひろ 三浦 章宏	元千葉県立西部図書館長	会長
9	〃	たんま やすひと 丹間 康仁	千葉大学准教授	副会長
10	〃	ささき ひでひこ 佐々木 秀彦	公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京 企画部 企画課長	
11	その他	はやかわ さきこ 早川 沙希子	公募委員	

(敬称略)

任期：令和3年6月1日から令和5年5月31日まで

2. 柏市教育委員会 出席職員名簿

番号	所 属	職 名	氏 名
1	生涯学習部	部 長	宮島 浩二
2	図書館	館 長	坂口 園子
3	〃	統括リーダー	柳川 行秀
4	〃	副主幹	千田 雅之
5	〃	副主幹	芦澤 慎二
6	〃	主 査	大野 真奈
7	〃	主 査	大里 祥子
8	〃	主 事	三石 瑠奈
9	生涯学習課	課 長	沖本 雅樹
10	中央公民館	館 長	牧野 共子
11	文化課	課 長	田口 大

3. 令和4年度主要事業報告

1 地域

(1) 学校への提供を前提としたデジタル教材の作成

令和3, 4年度の図書館協議会では「柏市立図書館のあり方」に基づいて「地域」をテーマに議論を深め、地域資料に関する「市の問題意識と方向性」の取りまとめを行いました。この具現化を目指す中で、学校への地域資料の提供について、次のような問題意識を持ちました。

① 学校では…

- ・市外出身の若い先生が多く、地域学習の授業準備が負担ではないか
- ・インプット型からアウトプット型の学習にシフトしている
- ・一人1台のタブレットが配布済で活用が進んでいる

② 図書館では…

- ・一般の流通本を学校に提供しているが、地域資料の提供はできていない（地域学習の支援ができていない）
- ・地域資料（情報）として、写真・動画・地図・統計情報等の電子データ（素材）を提供できれば、これらの「素材」を使って、タブレットでアウトプット（創造）することができるのではないか
- ・アウトプット（創造）を通じて、身近な地域の歴史や自然を学び、地域への愛着や誇りが育って欲しい
- ・子どもたちのまとめた成果物は、その地域の分館で、地域の人と共有したい
- ・学校の外で成果発表する場合には、著作権関係の課題をクリアする必要がある
- ・行政だけでは資料や素材を集めることは困難。専門的な知見を持つ市民の協力が不可欠

これらの問題意識を、美しい手賀沼を愛する市民の連合会（美手連）の方々と共有したところ、令和4年度から美手連が手賀沼をテーマにした「デジタル教材制作プロジェクトチーム」を立ち上げ、小学3, 4年生を対象にしたデジタル教材の作成に取り組みました。令和5年2月16日には、美手連から完成したデジタル教材8作品の寄贈を受けています。

今後は、寄贈されたデジタル教材の他、図書館でも手賀沼の写真や地図、統計情報などのデジタルデータやパスファインダーを用意し、手賀沼船上見学などの授業で活用できる形で学校に提供したいと考えています。

今後、手賀沼船上見学に参加した小学校に直接出向き、提供できる資料の紹介をする予定です。また、このデジタル教材については、学校からのフィードバックを受けて改良を重ねていきます。

(2) 永楽台分館「只見町情報コーナー」企画展示

令和5年1月28日から2月17日まで、柏駅にあるキネマ旬報シアターで、只見線全線再開に尽力した写真家を追ったドキュメンタリー映画『霧幻鉄道 只見線を300日撮る男』が上映されました。それにあわせて永楽台分館内の「只見町情報コーナー」でも新聞記事や映画チラシの展示を行いました。

(3) 本館展示「華麗なるカレーの世界」

近年、柏市内ではカレーを提供する飲食店が増えています。また、カレー食べ歩きスタンプラリー「カシワカレークエスト2022」が開催されるなど、カレーで柏を盛り上げようという企画も行われています。

そこで本館では、1月22日の「カレーの日」にちなみ、カレーに関する様々な資料の展示を行いました。柏市内のカレー店が紹介されている「かしのカレー図鑑(第1号～第6号)」や「柏のグルメマップ」、カレー食べ歩きスタンプラリー「カシワカレークエスト2022」のガイドマップも展示し、「柏とカレー」について紹介しました。



(4) 旧吉田家で「長屋門文庫でおはなし会」開催

令和5年1月29日に旧吉田家住宅歴史公園で、図書館ボランティアによるおはなし会を開催し、10組32名の参加がありました。普段とは違う歴史を感じる建物で、昔話やわらべ歌を楽しんだ後に、施設の見学も行いました。



2 子ども

(1) 柏市立柏高校「冬のおはなし会」

令和4年12月18日に本館で「冬のおはなし会」を開催し、市立柏高校の生徒2名と図書館職員3名で絵本の読み聞かせとクイズを行いました。出演者はクリスマスアイテムを身につけ、参加の子どもたちには市立柏高校が用意したクリスマスプレゼントを渡しました。来場者は大人10名、子ども12名でした。



(2) 子ども司書レポートと調べる学習コンクール受賞作品を展示

令和5年2月7日から2月19日まで、本館で子ども司書が作成したレポート「あったらいいなこんな図書館／本」と「第6回柏市図書館を使った調べる学習コンクール」の各受賞作品を展示しました。

3 つながり（外部との連携事業）

(1) GREEN UP KASHIWAで読み聞かせ（UDC 2，中心市街地整備課）

一般社団法人柏アーバンデザインセンター（UDC 2）が、新型コロナウイルス感染症の影響により通行量が減少した柏駅前の活気を取り戻すため、多世代が憩い集う空間創出を目的としたGREEN UP KASHIWA（柏駅前賑わい創出事業）を令和4年12月3日から順次OPENさせ、柏駅東口が“緑・子ども”をテーマに空間デザインされました。

その中で、令和5年2月5日と3月5日に行われたイベント「親子でハピネス」では、図書館職員が絵本の読み聞かせを行いました。読み聞かせを行う1時間半の間に多くの親子連れが立ち寄りしました。



(2) ウォークアブル社会実験（UDC 2）

UDC 2が令和5年3月8日から3月29日の間、「柏セントラルウォークアブル社会実験」と題した社会実験を柏駅東口周辺で実施しています。

柏駅から市役所周辺に至る経路の快適性や情報発信を高めることで回遊性を高めることができないか、ということを検証するため、休憩できるベンチや、案内サインが設置されました。目的地（ラコルタ柏・図書館本館・柏市役所本庁舎）までの誘導を行い、回遊性が高まるかを調査をしたり、期間中には景品がもらえるスタンプラリーを実施することで、その効果を検証する予定です。

図書館も当該事業に協力し、本館入口付近に腰掛けることができるデッキと身長計を設置し、子どもが好きな本と一緒に写真を撮るフォトスポットを用意しました。また、3月12日と3月19日には、設置したデッキで読み聞かせイベントも開催しました。



(3) 本館展示「かしわ太陽系ウォーク」（UDC 2，手作り科学館 Exedra）

令和4年11月3日から12月25日まで、柏駅周辺の小売店、飲食店、大型商業施設の各施設に展示スペースを設け、これらを結ぶスタンプラリーにより太陽系のスケール感を体験する『かしわ太陽系ウォーク』が開催されました。

図書館では、このイベントに宇宙関連の本を提供し、イベント終了後には、提供した本を集めたコーナーを設置しました。



4 電子図書館サービス

○開始日

令和5年1月24日午後1時

○導入目的

- ・ 利便性の向上
- ・ 視覚障害者等へのサービス充実
- ・ 独自デジタル資料の提供

○サービス内容

- ・ 導入した電子図書館システム：LibrariE&TRC-DL
- ・ タイトル数：11,147タイトル 一般書10,103（うち青空文庫7,142），児童書1,044（県内最大規模）
- ・ 対象者：市内在住，在勤，在学の方
- ・ 貸出冊数：2冊まで（貸出期間は2週間以内）

○利用状況（1月24日から4月23日まで）

①貸出回数

- ・ 10,102回（うち児童書の貸出回数は4,916回で全体の49%）
- ・ 児童書の一泊あたりの貸出回数は平均78回。これは年間換算で，全18館ある本館・分館のうち，14番目に相当する貸出規模

②実利用者数 1,713人

③回転数（4月9日から4月23日までの2週間）

貸出回数上位10タイトルの貸出回数をみると，紙の書籍と比較して回転が早い。（貸出回数上位1位17回，2位15回，3位12回）

④新規登録者数

令和5年1月1日から4月23日までの新規登録者を前年の同時期と比較すると，2,403人から3,121人に3割増加している。

○寄せられた意見や要望

- ・ 購入リクエストが出来るようにしてほしい
⇒ 紙の書籍の新刊タイトルは，電子図書館ではコンテンツ化されていないことを個別に説明している
- ・ 予約本の取り置き完了の連絡が欲しい ⇒ 事業者に要望済
- ・ コンテンツの充実

○今後の取り組み

- ・ 新規利用者を増やす取組を優先
（存在自体の周知，手軽さの周知，利用体験を通じた使い方講座）
- ・ 特集の更新回数増（保有コンテンツのアピール）
- ・ コンテンツの充実
（令和5年度は定期的に購入予定。年間で400タイトル程度）
- ・ 音声読み上げ機能，文字の拡大・反転機能の周知



4. 令和5年度事業構想

令和5年度の事業構想は次のとおりです。

1 地域情報の拠点化事業の推進

「地域情報コーナー」の4か所目として「音楽の街かしわ」コーナーを本館に設置します。また、3つの分館（高柳，増尾，永楽台）に設置している「地域情報コーナー」の資料の更新等のメンテナンスを行うとともに、地域住民との協働の取り組みを進めます。

2 DX推進

スマート登録，スマート更新，スマート貸出サービスを令和5年5月から開始予定です。図書館や電子図書館の利用に必要な手続きがオンラインで行えるようになります。

(1) スマート登録，スマート更新

来館不要でウェブから利用登録や更新を可能とする

(2) スマート貸出

スマホに表示させたバーコードで貸出手続可能とする（カード不要）

3 高田分館リノベーション

(1) スケジュール

- ・施設休館 令和5年9月から令和7年3月まで（予定）
- ・リニューアルオープン 令和7年4月（予定）

(2) 臨時カウンターでの業務

- ・期間 令和5年9月から令和7年3月まで（予定）
- ・場所 大堀川防災レクリエーション公園管理事務所内（旧柏幼稚園）
- ・サービス内容
予約資料の貸出，返却，予約・リクエストの受付，新規登録 等

4 プラネタリウム機器のオーバーホール費用をクラウドファンディング

本館にあるプラネタリウムは昭和51年3月に設置してから46年間，一度もオーバーホールを行っていないため，天体の輝度低下や位置にずれが生じており，オーバーホールが必要になりました。費用は約200万円で，このうち100万円をクラウドファンディングで資金調達を行う予定です。

5. 報告と協議

「（仮称）子ども・子育て支援複合施設」の開設に向けて

1 （仮称）子ども・子育て支援複合施設について

(1) 概要

- ・乳幼児から小中高生・若者まですべての世代の子どもたちと妊婦・子育て家庭が利用できる総合的な施設を整備
- ・送迎保育ステーションなどニーズの高いサービスを新設し、既存の機能を集約することで、子育て支援サービスの充実・向上を図り、つながる居場所機能を提供

(2) 施設の機能

【場所】 旧そごう柏店アネックス館（柏市柏4-58）

【機能】	1階：乳幼児一時預かり（こども部）	<集約>
	遊びの広場（こども部）	<拡充>
	2階：妊娠子育て相談センター（健康医療部）	<集約>
	3階：送迎保育ステーション（こども部）	<新規>
	4階：こども図書スペース（生涯学習部図書館）	<新規>
	→370㎡，対象者は主に「小学生」	
	5階：中高生世代の居場所事業（生涯学習部生涯学習課）	<新規>

* 4階フロアだけでなく、発達段階や年齢に応じた本との接点を増やすため、他のフロアにも図書コーナーを設ける予定

(3) スケジュール

3階は令和5年度中に開設，その他のフロアは令和6年度以降に開設予定

2 4階「こども図書スペース」の設置目的（主に小学生が対象）

- (1) 安全・安心な放課後等の「居場所」の提供
- (2) 「本との接点」の提供
- (3) 「遊び」を通じた子ども同士の交流の機会の創出

3 「こども基本法」（別紙1）に基づくこども施策の策定等へのこどもの意見の反映について

○こども基本法（抜粋）

（基本理念）

第三条 こども施策は、次に掲げる事項を基本理念として行われなければならない。

三 全てのこどもについて、その年齢及び発達程度に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること。

四 全てのこどもについて、その年齢及び発達程度に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されること。

（こども施策に対するこども等の意見の反映）

第十一条 国及び地方公共団体は、こども施策を策定し、実施し、及び評価するに当たっては、当該こども施策の対象となるこども又はこどもを養育する者その他の関係者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする。

【参考】こども施策の策定等へのこどもの意見反映に関する Q&A【第1版】から

- (1) 令和5年4月に「こども基本法」が施行され、こども施策の策定等に当たって、こどもの意見を反映することを義務付けている
- (2) 多様な手法を組み合わせることで意見聴取を行う
- (3) 意見を聴く際には、理由や必要な情報などを事前に伝える
- (4) 聴取した意見は、会議などで施策を議論する際の資料として活用する

4 ご意見やご提案を伺いたいこと

(1) 今回の協議会でお伺いしたい理由

図書館では、(仮称)子ども・子育て支援複合施設の4階フロアの検討を進めています。5月には小学生を対象に「意見聴取」を実施し、事業案に反映する予定です。令和5年度に行う第1回図書館協議会では、意見聴取した内容を報告するとともに、事業案を提示してご意見を伺いたいと考えています。

そこで、次の2点について、委員の皆さまにご意見やご提案をお伺いします。

(2) お伺いしたいこと

a. 設置目的の実現のために「必要な視点, 求められる要素」について

4階フロアの設置目的を実現するために、「必要な視点, 求められる要素」を以下の枠内に挙げました。この項目についてのご意見や、追加すべき視点についてご提案をお伺いします。(別紙3)

<設置目的の実現のために必要な視点, 求められる要素>

- ① 来館のハードルを下げる工夫
- ② 特別な場所ではなく, 日常の一部としての「居場所」
- ③ 本を目的としない利用を歓迎すること
- ④ 近くにある「本館」や「学校図書館」との差別化
- ⑤ 本館や学校図書館にはない「マンガ」の配架
(マンガがあれば一人で行きやすく, 一人で居ても気にならない)
- ⑥ 読みたい本がいつもあって(貸出無し), その場で読める環境
- ⑦ 「与えられた場所」「楽しませてもらう場所」ではなく, 自ら楽しむ場所, 自分たちの場所として認識してもらうための, 主体性を引き出す仕掛け
- ⑧ 「余白」を設けておき, 開設後に利用者の子どもからの提案で充実を図る

【参考】「こどもの居場所づくりに関する検討委員会(第5回)(令和5年3月6日開催)

資料1-3(報告書概要版)3ページ「居場所の現状と課題, 及び提言」(別紙2)

b. 小学生を対象とした「意見聴取」について

4階フロアの運営について、また、設置する本棚等の備品類の選定や配置の検討時に参考とするため、以下のとおり、質問案を作りました。この質問案について、ご意見やご提案をお伺いします。

また、「意見聴取」の方法として、ウェブアンケートと、図書館職員が訪問して、対面でのグループヒアリングを予定しています。聴取方法や、グループヒアリングの候補先となるコミュニティについて、ご提案やご意見をお伺いします。

<質問案>

【放課後について】

Q1：放課後（休みの日）は、どこで過ごしていますか？

Q2：放課後（休みの日）は、どんなことをしていますか？

【夢中になっていること、遊び】

Q3：いま、あなたが夢中になっていること（一番楽しいと思うこと）は何ですか？

Q4：小学校ではどんな遊びが流行っていますか？

【居場所について】

Q5：たまり場（秘密基地・アジト）はありますか？

Q6：それは何か所ありますか？

Q7：それはどんなところですか？

Q8：そこでは誰と過ごしていますか？（1人という回答でも可）

Q9：そこには何がありますか？

Q10：そこでどんなことをしていますか？

Q11：どうしてそこに行きたいと思うのですか？

【本について】

Q12：好きな本（マンガを含む）を3冊教えてください